

清新中学校だより 清風

令和4年9月30日
第199号

思いや考えを行動にする力

校長 江戸谷 智章

清新中学校では、これからの時代を生き抜いていくために必要な力として「3つの力」を掲げ、近隣の小学校とも連携しながらその力の育成に努めているところです。すでに生徒たちの中にも徐々に浸透していきっている「3つの力」ですが、その一つに「思いや考えを行動にする力」があります。



実は、今回このことを考えるきっかけとなった、ある生徒のつぶやきがありました。その生徒は学校祭に向けて個人目標を考えていたのですがその最中、「目標は浮かぶんだけど、いつも上手くいかないんだよな・・・」といったことを口にしていました。これまでもクラスのために自分なりにできることを考え、様々な目標を立ててきたのでしょうか。思うようにはかどらなかったこれまでを悔いていたかのようにでした。けれどもこういった後悔の念は、この生徒に限らず私たち大人も経験しているように思います。まさに「言うは易（やす）く 行うは難（がた）し」を感じた一瞬でした。

とは言え皆さんの中には、何らかの行動を起こさなくてはいけないことを直感的にわかっていながら行動に踏み出せなかったり、時間をかけて計画を立ててみたものの、そのことに満足してしまい、結果、課題の解決を先送りにしてしまったりという経験はないでしょうか（私だけか・・・）。

行動につながらなかった原因の一つに、行動を起こそうと思う前に、「行動を起こすための条件は全てそろっているのか」、「皆は協力してくれるだろうか」、「自分が言い出して失敗したら・・・」等々、必要以上にあれこれ考えてしまった結果、全てが整わないから行動に踏み出せなくなったという経験が、恥ずかしながら私にはあつたりしました。

ここで誤解があってはいけないのですが、「考えること、思いを巡らせること」自体を否定しているわけではありません。大事なことは「考えること」と「行動に起こすこと」の2つのバランスをどうとるかということにあるように思うのです。考えているだけで行動に起こせなければ、何の結果も生まれないのは当然のことです。一方で、やみくもに行動に移して、自分はおろか他人をも傷つけてしまつてはもともともありません。

皆さんは、美術の教科書にも掲載されている「ゲルニカ」や「アビニヨンの娘たち」など、生涯に渡って15万点もの作品を世に出した、パブロ・ピカソをご存知のことと思います。彼が残した有名な言葉の一つに、「何を描きたいかは、描きはじめてみなければわからない」というのがあります（注）。この言葉はとても深い意味があるように思います。人生において何かを生み出すためには、行動を起こしてみなければわからないということを言っているように思います。そう考えると、真の実行力を身につけていくためには、「思考」と「行動」のバランスを保ち、ある意味、「考えながら行動する」、「行動しながら考える」といった表裏一体の資質を身につけていくことが必要のように思うのです。

冒頭のある生徒のつぶやきに話を戻します。自分自身で考え、必要と思うことはとりあえず行動に移してみる。上手くいくか、いかないかはやってみなくてはわからないことです。やってみて上手くいかなかったなら別の方法でやってみる。場合によっては目標そのものを考え直すこともあっていいと思うのです。自分の考えを修正したり、訂正を加えたりすることは決して恥ずかしいことではないのです。アメリカのアイゼンハワー大統領も「計画そのものには意味がない。計画し続けることに意味がある」と言っています。大事なことは完璧な計画ではなく、行動に起こした結果、上手くいかなければその計画を書き直す柔軟な行動力だと思ふのです。

将来を予測できる人などそうはいません。頭で考えても、その解が正解か不正解かはやってみなければわからないのが世の中です。ただ考えているうちは傷ついたり、挫折したりすることはないけれど、行動を起こした人は、成功・失敗に関わらず、かけがえのない経験を積み、さらに次の行動を踏み出す時の貴重な判断材料を得ることになります。「経験は財産」という言葉もあります。生徒たちにはこの清学祭を機に、自分の殻を破ってほしいと願っているところです。



（注）『語るピカソ』（ブラッサイ著 飯島耕一・大岡信訳 みすず書房）から一部引用

ひらがな一文字で、意識がわかる!?

清学祭体育の部部長 加藤 翔太

2022年10月12日(水)開催の「清学祭 体育の部」に向けて、いよいよ活動が本格的になってきています。各クラスの体育委員を始め、生徒会役員、各委員会の生徒、先生方、全ての人がこの行事のために活動しています。他者に見えやすい場所でも、見えない場所であってもです。行事は当たり前存在するのではなく、多くの人の活動があって、多くの人の協力があって初めて成り立つものです。ぜひ、そのことを心に留め、これからの活動も全力で楽しんでほしいと思います。



さて、私からは、行事や物事に対して取り組む意識を表す言葉を紹介したいと思います。これは、私が社会人になって間もなく出会った言葉であり、当時かなりの衝撃を受けたことを今でも覚えている言葉です。タイトルにあるとおり、たったひらがな一文字を入れるだけで、取り組む意識の違いがわかるというものです。

みなさんは、「私 体育の部」の「私」と「体育の部」の間に、どのひらがな、一文字を入れますか？入れるひらがなによって、どのくらいの熱意を持って、その人がその物事に関わっているか、その意識が4段階でわかるようです。

- ①【や】「私 や 体育の部」 これは、私と体育の部にほとんど関わりがなく、むしろ無関心とも言える状態です。自分とは全く関係のない物事という意識です。
- ②【と】「私 と 体育の部」 ①よりは、私と体育の部との距離感が近く、多少は関わっているという意識は持っています。が、まだまだその物事の優先順位は低いです。
- ③【の】「私 の 体育の部」 これは多くの人が考えるであろう、ひらがな一文字です。私と体育の部とのつながりが感じられ、その物事に積極的に関わろう(関わっている)意識があります。その物事を達成した後には、達成感があったり、思い出になったり、何か学ぶことがあったりすることが多い意識です。
- ④【が】「私 が 体育の部」 これが一番、主体性を感じられるひらがな一文字ですが、なかなか自信を持って言えないものでもあるように思います。「私=体育の部」、つまり私の行動や言動、その1つ1つが体育の部を形作っている、という意識を持ってしている状態、他に影響を与えようとしている状態です。その物事が終わった後には、楽しかったり、悔しかったりする喜怒哀楽が一番生まれやすい意識です。



当時の私は、【の】を真っ先に思い浮かべました。しかし、その先の意識を表す【が】の存在を知り、それまでの行動や言動を改めました。組織や集団に属していると、大人数の中の1人になり、たった1人の行動なんて、ちっぽけに感じるかもしれません。しかし、その1人の行動が、組織や集団を作っていきます。体育の部でも同じことが言えます。みなさん、一人ひとりの意識や行動が、清学祭 体育の部を作ります。更にそれが、清新中学校を作っていきます。現在の、そして将来の。体育の部をみんなで盛り上げていきましょう。

ぜひ、学校行事を通して、物事に取り組む姿勢や意識を考えるきっかけにしてもらいたいと思います。「体育の部」の部分には、自分が関わる物事を当てはめてみてください。







10月の主な日程



※下記の日程につきましては変更されることもあります。ご了承ください。

令和4年10月 ※月・木は原則諸活動なし

- 3日(月) 国際教室おはなし会
- 4日(火) 清学祭体育の部予行前日準備
- 5日(水) 清学祭体育の部予行練習
- 6日(木) 清学祭係別会議 
- 10日(月) スポーツの日
- 11日(火) 清学祭体育の部前日 OT・準備
諸活動なし
- 12日(水) 清学祭体育の部 諸活動なし
- ※12日(水)～14日は弁当持参(注文昼食なし)
- 13日(木) 体育の部係別会議・生徒会委員会
- 14日(金) 進路保護者会(3年) 
- 17日(月) 諸費集金日④
- 18日(火) 教育相談①

- 19日(水) 教育相談② 生徒会中央議会
- 21日(金) 教育相談③
- 24日(月) 学習診断試験(3年) 
- 25日(火) 教育相談④
進路保護者面談(3年)①
- 26日(水) 教育相談⑤
進路保護者面談(3年)②
校外学習前日 OT(2年) 
- 27日(木) 教育相談⑥
進路保護者面談(3年)③
校外学習(2年・ときわぎ級)
- 28日(金) 教育相談⑦
進路保護者面談(3年) 